

理由の接続助詞と終助詞・間投助詞の接続 —首都圏・熊本・倉吉方言を対象に—

第2回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」

合同研究発表会

阪上 健夫（東京大学大学院）

2024/3/17

1. はじめに

1.1. 理由の接続助詞の文末用法

(1)(会合等で退出する際に)

じゃあ、私はこの辺で帰るから。【首都圏方言】

(2)(雨が降っていることに気付いて連れの人に知らせる時)

あら、雨の降りよるケン。(=「よ」?)【熊本方言】(和田2009)

接続助詞の**終助詞化**・理由節の**主節化**の程度に方言差がある。

①用法・意味

②終助詞・間投助詞との**接続関係**—主な考察対象

(1')じゃあ、私はこの辺で帰るからね。【首都圏方言】

文末用法と終助詞の接続には文中用法の間投助詞との接続とは異なる現象が見られる。

1. はじめに

1.2. 接続助詞の文末用法の分類

言いさし: 言語形式的に主節が表現されない。(白川1991, 2009)

関係付け: 文脈の中に主節として関係付けられる内容があるもの

「ご飯が美味しいね。」

「今日はよく働いたから。」

言いつくし: 文脈中に主節が見出しにくい。**意味的に完結する。**

「ちょっと煙草買ってくるから。」—考察対象

首都圏・熊本・倉吉方言話者を対象とした**面接質問調査**にもとづき、
理由の接続助詞の**文中用法と文末用法の連接関係の異同**を解明。

1. はじめに

- ・ 発表の構成

2. 先行研究(理由の接続助詞の文末用法・終助詞・述部のモダリティ構造)

3. 調査方法

4. 調査結果

5. 「カラ」「ケン」「ケー」の文中用法と文末用法の接続関係の異同

6. 結論と課題

2. 先行研究

2.1. 首都圏方言の「から」の文末用法と終助詞の接続

「から」で終わる文は完全文。

モダリティ的な意味機能(相手への働きかけ)がある(許1997)。

文末の「から」には終助詞「ね」が付き得る(許2002:114)。

対人的モダリティ形式を伴った独立文との平行性が見られる。

終助詞との言い換えも可能(白川2009:167)。

(3)「煙草買ってくる(から／よ)」(白川2009:168-169【一部改】)

終助詞との関係の詳しい説明はない。接続助詞をモダリティ形式とするならば、**他のモダリティ形式との接続関係**を踏まえた分析をすべき。

2. 先行研究

2.2. 熊本方言の接続助詞「ケン」および終助詞

- 理由の接続助詞「ケン」の**文末用法**

「から」より抽象化した**話し手の確信的な事態の一方的な知らせ**という対人的モダリティの意味で主節に付加する(阪上2023)。

(4)(雨が降っていることに気づき知らせる時)ア アメガ フットルケン。

- 終助詞との**接続形**の「ケンネ」「ケンナ」

話し手の確信的な認識に言明して聞き手との共有を確認(阪上2023)。

(5)A:阿蘇山から見える景色は良かったよ。B:アレワ ヨカケンネ。

(6)(不確かな情報を確認する意味で)

コトシノ ブンカサイワチューシ{ヨネー／*ダケンネ}。

○熊本方言の「ケン」は首都圏方言の「から」より終助詞化が進んでいる。

2. 先行研究

2.2. 熊本方言の接続助詞「ケン」および終助詞

- 熊本方言の終助詞

「バイ」:話し手の**体験・心情・判断**の**一方的な訴え**

「タイ」:**一般的・客観的・普遍的**な判断や事実。一種の冷淡さや尊大感。

(上村1983:25, 秋山1983:226, 神部1991:275, 神部1992:40,45)

(7)オリヤー モー イヌツ バイ。／おれはもう帰るよ。

(8)ショーノ ナカ タイ。／しょうがないさ。(神部1992:41)

(9)あそこの郵便局でタイ、山田さんにあったと。【間投助詞】(和田2009:1)

- 終助詞の**接続形**

「タイ(ナ／ネ)」 「バイ(ナ／ネ)」(藤原1986:67-70,404, 神部1992:52)

2. 先行研究

2.3. 鳥取県倉吉方言の接続助詞「ケー」

(10) 今年か！それが どだい いけんかったけ。(今年の梨の出来を聞かれて)

(小矢野2017, webサイト「倉吉のおばさん」)

文末形式「ケー」は聞き手に発話内容を強く伝える態度を表す(小矢野2017)。

「ケナー」「ケーナー」は話し手の最も伝えたい情報に付く(湯浅2003:130)。

聞き手の知らない情報を伝えるのみの用法もあり、終助詞と同じ機能を担う(湯浅2004:70)。話者が際立たせたい情報の指標(湯浅2004:64)。

(11) ウチノ子ワ ホンニ ジットシトレンダケナー キノーモ 目離シタ隙ニ

橋ノホーマデ 出トツタダケーナー…(湯浅2004:70-71)

鳥取方言の「ケ」「ケー」は首都圏方言より終助詞化が進んでいると思われる。しかし、どういう場合に使えてどういう場合に使えないのか、はっきり分かっていない。

2. 先行研究

2.4. 述部のモダリティ表現の階層と接続関係

述部の構造は階層に分かれる。

前の方ほど事態や物事の論理的関係に関わり、末尾ほど話し手の態度や情意に関わる(渡辺1953, 1968, 林1960, 南1993)。

終助詞の階層構造:「か」「わ」→「よ」→「な」「ね」(南1993:54)

モダリティ:話し手の判断や態度(仁田1991, 益岡1991, 2000)

対事的モダリティ(事柄に対する判断)

対人的モダリティ(聞き手への働きかけ等。**終助詞**を含む。)

より外側・末尾の階層。述部では後続。

階層構造を踏まえて**文末の接続助詞と終助詞の接続関係**を明らかにし、**文中用法の間投助詞との接続関係と比較**。終助詞化について示す。

3. 調査方法

- 首都圏方言話者の情報

面接質問調査は2022～2024年に**首都圏方言話者5名・熊本方言話者8名・倉吉方言話者3名**を対象に実施。

首都圏方言話者に「から」や終助詞・間投助詞の容認度を尋ねる。

言語形成期の居住地	生年	性別
(12)A:東京都江戸川区	1995年	男性
B:神奈川県厚木市	1998年	男性
C:神奈川県相模原市	1998年	男性
D:東京都新宿区	1999年	女性
E:神奈川県厚木市	1999年	男性

3. 調査方法

・熊本方言話者の情報

言語形成期の居住地	生年	性別
(13)A:熊本県熊本市(調査時に県内在住)	1938年	男性
B:熊本県熊本市	1955年	男性
C:熊本県天草郡(調査時に県内在住)	1957年	女性
D:熊本県熊本市	1986年	女性
E:熊本県八代市	1992年	男性
F:熊本県熊本市	2001年	女性
G:熊本県阿蘇市	2002年	女性
H:熊本県菊池郡	2002年	女性

※接続助詞「ケン」に関する現象は県内で広く見られる→「熊本方言」

3. 調査方法

• 倉吉方言話者の情報

言語形成期の居住地	生年	性別
(14)A:鳥取県倉吉市(現在も倉吉市在住)	1967年	男性
B:鳥取県倉吉市(現在も倉吉市在住)	1968年	男性
C:鳥取県倉吉市	1970年	男性

首都圏方言の例文を**方言に訳**してもらい、「ケン」「ケー」が使われなかった場合は「ケン」「ケー」を用いた例文を提示して**可否を尋ねる**。

• 調査項目(I~Ⅲ)

阪上(2023:熊本方言の理由の接続助詞)と同一 + 間投助詞

3. 調査方法

- I. 文中での本来的用法

〔1〕今日は日曜日だから、車通りが多いよ。

〔2〕地面が濡れているから、雨が降ったのだろう。

〔3〕今お茶でも入れるから、上がって。

〔4〕もうすぐおでんができるから、待っていて。

〔5〕私がスイカを切るから、君は盛り付けてくれ。

「からさ」「からね」といった間投助詞の使用についても調査。

3. 調査方法

・Ⅱ. 首都圏方言の「から」と共通した文末用法

具体的な行為要求にとりやすい

〔1〕(家族に留守番を頼む意味で)

ちょっと買い物に行ってくるから。

〔2〕(自宅に来た客に席を勧める時に)

今お茶でも入れるから。

→「上がって」

〔3〕(人と外出する際、先に外に出ている人に)

今すぐ靴を履くから。

→「少し待っていて」

〔4〕(依頼をした後、別れ際に)

それでは、頼んだから。

3. 調査方法

・Ⅱ. 首都圏方言の「から」と共通した文末用法

具体的な行為要求にとりにくい

[5] (会合等で退出する際に)

では、僕／私はこの辺で帰るから。

[6] (家に来た友人に)

帰りは車で送ってあげるからね。【「ね」との接続形】

[7] (部屋を散らかしている家族に)

今日中に片付けておかないと全部捨てるからね。

[8] 遅くに出かけてお化けに会っても知らないからね。

3. 調査方法

- Ⅲ. 首都圏方言の「から」に置き換えにくい文末用法
(空欄は自由に助詞を補足)

[1] (Aに自分の知識を伝える意図で)

A: 熊本のからし蓮根が食べたいな。(鳥取では「お饅頭」に変更)

B: 名産品のからし蓮根は高い_。【話し手の知識】

[2] (雨が降っていることに気付いて知らせる時) あ、雨が降っている_。

[3] (聞き手の襟が立っているのを見て知らせる意味で)

襟が立っている_。【その場で気付いた事態の知らせ】「よ」

3. 調査方法

・Ⅲ. 首都圏方言の「から」に置き換えにくい文末用法

[4] A:あの歌手は紅白歌合戦に出ていたね。

B:あー、新聞に載っていたね。生まれは九州と書いてあった_。

[5] (いつ頃ここに来たかと聞かれて)【質問への応答】

僕／私は生まれてからずっとここに住んでいる_。「よ」

[6] (一人でスポーツ番組を見て)

やっぱりプロの選手はアマチュアと雰囲気が違う_。

【独話的な発話】「わ」「な」

[7] (Bを自然公園で見た次の日)

昨日自然公園にいた_。【聞き手への確認】「ね」

3. 調査方法

・Ⅲ. 首都圏方言の「から」に置き換えにくい文末用法

「よね」:聞き手との一致を想定して話し手の認識を示し、聞き手に確認
(蓮沼1992, 野田1993:10, 日本語記述文法研究会2003:266)。

[8] A:今は耳にピアスをしている人が多いね。

B:でも、びっくりする_。この頃は鼻にも穴を開けているんだから。

[9] (昔一緒に花火大会に行った人と話す際、同意を求める意味で)

A:それから夏には花火を見に行った。

B:そうだったね。

A:あの花火は綺麗だった_。

3. 調査方法

・Ⅲ. 首都圏方言の「から」に置き換えにくい文末用法

〔10〕(自身の意見を述べて同意・確認を求める意味で)

A: 今度沖縄に旅行しようよ。

B: 沖縄に旅行するなら、問題はお金だ_。

〔11〕(旅行に行ってきたAと旅行の話になり、同意する意味で)

A: 阿蘇山から見える景色は良かったよ。

B: あれは良い_。

〔12〕(高校同期のAと修学旅行の時の話になり、同意する意味で)

A: あの時は他校の修学旅行生が200人くらい来ていた。

B: あー、多かった_。「よね」

3. 調査方法

・Ⅲ. 首都圏方言の「から」に置き換えにくい文末用法

[13] (高校同期のAと修学旅行の時の話になり、同意する意味で)

A:あの時は生徒が夜に外出すると先生が怒った。

B:あ一夜間の外出を怒っていた_。

[14] (不確かな情報を確認する意味で)今年の文化祭は中止だ_?

「よね」:話し手の認識を表す用法([8]~[13])

聞き手の方が詳しい情報の確認を求める用法([14])

(蓮沼1992, 野田1993:10, 日本語記述文法研究会2003:266)

4. 調査結果

4.1. 文中用法の間投助詞との接続関係

表 1-1: 首都圏方言

	A	B	C	D	E
I. 文中での本来的な用法					
[1] 日曜日	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)	○(ネ)○(サ)
[2] 地面	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)
[3] 上がって	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)
[4] 待って	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)
[5] スイカ	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)○(サ)

私がスイカを切るから、
君は盛り付けてくれ。

○:「カラ」が使える

○(サ):「サ」が任意に後接
○(ネ):「ネ」が任意に後接

「からよ」: 古風。位相が限られる。中年男性が言いそう。

乱暴で粗雑な印象。目上の人には言わない。

4人(C以外)は不自然ではないが自分では言わないと回答。

4. 調査結果

4.1. 文中用法の間投助詞との接続関係

表 1-2: 熊本方言(阪上2023と一部重なる)

	A	B	C	D	E	F	G	H
I. 文中での本来的な用法								
[1] 日曜日5	○	○(ネ)	○	○(タイ)	○(ネ)	○	○(ネ) ○(タイ)	○(ネ) ○(タイ)
[2] 地面5	○(ネ)	○	○	○(タイ)	○(ネ)	○	○(ネ)	×
[3] 上がって5	○(ネ)	○(ネ)	○(タイ)	○(タイ)	○	○	○(ネ)	○(ネ) ○(タイ)
[4] 待って5	○	○(ネ)	○(タイ)	○(タイ)	○	○(ネ)	○(ネ)	○(ネ) ○(タイ)
[5] スイカ5	○	○(ネ)	○(タイ)	○(タイ)	○(タイ)	○	○(ネ)	×

○: 「ケン」が使える

○(タイ): 「タイ」が任意に後接

○ネ: 「ネ」が義務的に後接

○(ネ): 「ネ」が任意に後接

×: 使えない

4. 調査結果

4.1. 文中用法の間投助詞との接続関係

熊本方言では全ての用例にではないが、
接続助詞「ケン」の後に**間投助詞**として「ネ」「タイ」が付加できる。

I [1] キョーワ ニチヨーダケンネ クルマドーリガ オーカヨ。【B】

[2] ミチ ヌレトルケンネー アメン フッタッダロー。【A】

[3] イマ オチャバ イレルケンタイ アガットツテ。【C】

[4] モースグ オデン デキルケンタイ マットツテ。【H】

「ケンネ」：念押しになることもある。【H】

「ケンタイ」：かなり親しい仲の人にしか使えない。【H】

「～からさ」のように捉える。【F】

4. 調査結果

4.1. 文中用法の間投助詞との接続関係

表1-3: 倉吉方言

キョーワ ニチヨービダケー
クルマドーリガ {オーイデ
【B】／オーイヨ【C】}

モースグ オデング デキル
ケー マットツテ。【A】

※「ケン」はあまり言わない。

	A	B	C
I. 文中での本来的な用法			
[1] 日曜日5	○(ナー)	○(ナー)	○(ナー)
[2] 地面5	○(ナー)	○(ナー)	○(ナー)
[3] 上がって5	○(ナー)	○(ナー)	○(ナー)
[4] 待って5	○(ナー)	○(ナー)	○(ナー)
[5] スイカ5	○(ナー)	○(ナー)	○(ナー)

「ケー」に任意に間投助詞「ナー」を後接させることが可能。
[3] イマ オチャデモ イレルケーナー アガットイテ。【B】

4. 調査結果

4.2. 文末用法の終助詞との接続関係

表 2-1: 首都圏方言

	A	B	C	D	E
Ⅱ. 首都圏方言の「から」と共通した文末用法					
1: 買い物	○	○	○	×	○
2: お茶	○	×	○	○	○
3: 靴	○	○	○	○	○
4: 頼んだ	○	○	×	○	○
5: 帰る	○	○	○	○	○
6: 車	○(ネ)○(サ)	○(ネ)	○(ネ)	○(ネ)	○(ネ)
7: 捨てる	○(ネ)	○(ネ)	○(ネ)○(サ)	○(ネ)	○(ネ)
8: お化け	○(ネ)	○(ネ)	○(ネ)	○(ネ)	○(ネ)

主節の内容が伝わりにくい

帰りは車で
送ってあげる
からね。

「からさ」: 後に「ゆっくりしなよ・お酒を飲んでいいよ[6]」「片付けろ[7]」といった内容がないと不自然。[8]は後に続く内容が思いつかないから言えない。

「からよ」: 乱暴。C以外は不自然ではないが自分では言わない。後に内容が必要(C)。

4. 調査結果

4.2. 文末用法の終助詞との接続関係

表 2-2: 熊本方言(阪上2023と一部重なる)

	A	B	C	D	E	F	G	H
Ⅱ. 首都圏方言の「から」と共通した文末用法								
1: 買い物4	○	○	○	○	○	○	○	○
2: お茶4	×	○	○ネ	○	○	○	○	○
3: 靴5	○	○	○	○	○	○	○	○
4: 頼んだ4	×	○	○(ネ)	○	○	×	○	○(ネ)
5: 帰る5	×	○(ネ)	○	○(ネ)	○	○(ネ)	○	○
6: 車5	○	○(ネ)	○ネ	○(ネ)	○ネ	○(ネ)	○(ネ)	○
7: 捨てる5	○(ネ)	○(ネ)	○	○(ネ)	○ネ	○ネ	○ネ	○ネ
8: お化け5	○	○	○ネ	○	○ネ	○	○	○ネ

○: 「ケン」が使える

×: 使えない

○ネ: 「ネ」が義務的に後接

○(ネ): 「ネ」が任意に後接

4. 調査結果

4.2. 文末用法の終助詞との接続関係

- 熊本方言の「ケン」の文末用法

Ⅱ〔4〕オラー コノヘンデ タイサンスル{バイ／*ケン}。【A】

ジャー アタシワ ココラデ カエッケン。【D】

- 熊本方言の「ケン」の文末用法と終助詞の接続形

Ⅱ〔6〕(家に来た友人に)

カエリワ クルマデ オクッテアグッケンネ。【E】

「*ケンタイ」「*ケンヨ」「*ケンバイ」(全ての話者)

Ⅱ〔7〕(部屋を散らかしている家族に)

キョージュニー カタシトカント ゼンブ ステルケンネ。【B】

「*ケンタイ」「*ケンヨ」「*ケンバイ」(全ての話者)

4. 調査結果

4.2. 文末用法の終助詞との接続関係

表 2-3: 倉吉方言

	A	B	C
Ⅱ. 首都圏方言の「から」と共通した文末用法			
1: 買い物4	○	○	○ナー
2: お茶4	○	○	○ナー
3: 靴5	○	○	○ナー
4: 頼んだ4	○(ナー)	○ナー	○ナー
5: 帰る5	○ナー	○	○(ナー)
6: 車で送る5	○ナー	○(ナー)	○ナー
7: 捨てる5	○ナー	○(ナー)	○ナー
8: お化け5	○(ナー)	○ナー	○ナー

チョット カイモノニ イッテ
クルケナー。【C】

(会合等で退出する際に)
コノヘンデ カエルケナー。【A】

4. 調査結果

4.3. 首都圏方言にない文末用法の終助詞との接続関係

表 3-1: 首都圏方言

		A	B	C	D	E
Ⅲ. 首都圏方言の「から」に置き換えにくい文末用法						
話し手の知識 その場の知覚	1: 名産品	×	×	×	×	○
	2: 雨	×	×	×	×	×
話し手の経験 質問への応答	3: 襟	×	×	×	×	×
	4: 新聞	×	×	×	×	×
独話的な言明 聞き手に確認	5: ずっと	×	×	×	×	×
	6: 雰囲気	×	×	×	×	×
話し手の認識	7: 公園	×	×	×	×	×
	8: ピアス	×	○ネ	×	×	×
	9: 花火	○	×	×	×	×
	10: 沖縄	×	×	×	×	×
	11: 景色	○ネ	○ネ	×	×	×
	12: 他校	×	×	×	×	×
不確かな情報	13: 外出	×	×	×	×	×
	14: 文化祭	×	×	×	×	×

あ、雨が降っている{よ／*から}。

やっぱりプロの選手はアマチュアと雰囲気が違う{な／*から}。

(修学旅行の時の話になり、同意する意味で)
A: あの時生徒が夜に外出すると先生が怒った。
B: あ一夜間の外出を怒っていた{よね／*からね}。

4. 調査結果

4.3. 首都圏方言にない文末用法の終助詞との接続関係

表 3-2: 熊本方言(阪上2023と一部重なる)

		A	B	C	D	E	F	G	H
Ⅲ. 首都圏方言の「から」に置き換えにくい文末用法									
話し手の知識	1: 名産品 I	×	×	○(ネ)	×	×	○	○ネ	○
その場の知覚	2: 雨 0	×	×	○	×	○	○	×	○
	3: 襟 0	×	×	×	○	×	○	×	×
話し手の経験	4: 新聞 0	○ネ	×	○ネ	×	○ネ	○	×	○
質問への応答	5: ずっと 0	×	×	×	×	×	○	×	×
独話的な言明	6: 雰囲気 0	×	×	○ネ	×	×	×	×	×
聞き手に確認	7: 公園 0	×	×	×	×	×	×	×	×
話し手の認識	8: ピアス I	×	○(ネ)	○	○	○(ネ)	×	○(ネ)	×
	9: 花火 I	×	○ネ	○(ネ)	○ネ	○ネ	×	×	○ネ
	10: 沖縄 I	×	○(ネ)	○(ネ)	○ネ	×	○(ネ)	○ネ	×
	11: 景色 2	○ネ	○ネ	×	×	○ネ	○ネ	○ネ	○ネ
	12: 他校 0	×	○ネ	○ネ	×	×	×	○ネ	○ネ
	13: 外出 0	×	○ネ	○ネ	○ネ	×	×	×	○ネ
不確かな情報	14: 文化祭 0	×	×	×	×	×	×	×	×

4. 調査結果

4.3. 首都圏方言にない文末用法の終助詞との接続関係

・接続形「ケンタイ」

Ⅲ〔13〕A:あの時は生徒が夜に外出すると先生が怒った。

B:アー ヤカンノ ガイシュツバ オコットッタケンネ。

*ケンヨ／*ケンバイ／*ケンタイ【B】

(15)A:今日は車通りが多いなあ。

B:日曜日だからだよ。(首都圏方言の「**からだ**」に当たる用法)

ニチヨービダ {ケンタイ／ケンバイ／ケンヨ}。【A】

話者全員許容

「**からだ**」:文脈の中で「どうして?」という問題設定がされており、それに対する解答を表す(白川1994:66)。(≡関係付け)

4. 調査結果

4.3. 首都圏方言にない文末用法の終助詞との接続関係

表 3-3: 倉吉方言

		A	B	C
Ⅲ. 首都圏方言の「から」に置き換えにくい文末用法				
話し手の知識	1: 名産品1	○ナー	○	○ナー
その場の知覚	2: 雨0	○	×	○
	3: 襟0	○	×	○ナー
話し手の経験	4: 新聞0	○ネー	×	○ナー
質問への応答	5: ずっと0	○	○	○ナー
独話的な言明	6: 雰囲気0	○ナー	○ナー	○ナー
聞き手に確認	7: 公園0	×	×	×
話し手の認識	8: ピアス1	○	×	○ナー
	9: 花火1	○ナー	○ナー	○ナー
	10: 沖縄1	○	×	○ナー
	11: 景色2	○ナー	○ナー	○ナー
	12: 他校0	○ナー	○ナー	○ナー
	13: 外出0	○ナー	○ナー	○ナー
不確かな情報	14: 文化祭0	×	×	×

A: 鳥取のお饅頭が食べたいな。

B: メーサンヒンノ オマンジューワ
タカイケナー。【A】

(聞き手の襟が立っているのを見て)
エリガタツトル{デ/*ケー}。【B】

(一人でスポーツの番組を見ていて)
ヤッパリ プロノ センシュワ アマチュ
アト フンイキガ チガウケナー。【C】

4. 調査結果

4.3. 首都圏方言にない文末用法の終助詞との接続関係

表 3-3: 倉吉方言

		A	B	C
Ⅲ. 首都圏方言の「から」に置き換えにくい文末用法				
話し手の知識	1: 名産品1	○ナー	○	○ナー
その場の知覚	2: 雨0	○	×	○
	3: 襟0	○	×	○ナー
話し手の経験	4: 新聞0	○ネー	×	○ナー
質問への応答	5: ずっと0	○	○	○ナー
独話的な言明	6: 雰囲気0	○ナー	○ナー	○ナー
聞き手に確認	7: 公園0	×	×	×
話し手の認識	8: ピアス1	○	×	○ナー
	9: 花火1	○ナー	○ナー	○ナー
	10: 沖縄1	○	×	○ナー
	11: 景色2	○ナー	○ナー	○ナー
	12: 他校0	○ナー	○ナー	○ナー
	13: 外出0	○ナー	○ナー	○ナー
不確かな情報	14: 文化祭0	×	×	×

A: それから夏には花火を見に行った。

B: そうだったね。

A: アノ ハナビワ

キレーダッタケナー。【B】

A: あの時は他校の修学旅行生が200人くらい来ていた。

B: アー オーカッタケーナー。【C】

4. 調査結果

4.3. 首都圏方言にない文末用法の終助詞との接続関係

表 3-3: 倉吉方言

		A	B	C
Ⅲ. 首都圏方言の「から」に置き換えにくい文末用法				
話し手の知識	1: 名産品1	○ナー	○	○ナー
その場の知覚	2: 雨0	○	×	○
	3: 襟0	○	×	○ナー
話し手の経験	4: 新聞0	○ネー	×	○ナー
質問への応答	5: ずっと0	○	○	○ナー
独話的な言明	6: 雰囲気0	○ナー	○ナー	○ナー
聞き手に確認	7: 公園0	×	×	×
話し手の認識	8: ピアス1	○	×	○ナー
	9: 花火1	○ナー	○ナー	○ナー
	10: 沖縄1	○	×	○ナー
	11: 景色2	○ナー	○ナー	○ナー
	12: 他校0	○ナー	○ナー	○ナー
	13: 外出0	○ナー	○ナー	○ナー
不確かな情報	14: 文化祭0	×	×	×

コトシノ ブンカサイワ

チューシダッタ

{カイナー／*ケナー}。【A】

聞き手に知らせる意味になる。

5. 「カラ」「ケン」「ケー」の 文中用法と文末用法の接続関係の異同

- 首都圏方言の「カラ」: 南(1993:54)等の位置づけを参考

文中	カラ	+	{ヨ・サ・ネ}	文末	サ	
			(位相限られる)			
				ヨ	+	{ネ・ナ}
				カラ	+	{ネ・ナ}

- 熊本方言の「ケン」

文中	ケン	+	{タイ・ネ}	文末	ヨ・バイ・タイ	+	{ネ・ナ}
					ケン	+	{ネ・ナ}

- 倉吉方言の「ケー」

文中	ケー	+	ナー	文末	ヨ・デ	ナー	
+: 接続可能	: 範列的対立関係				ケー	+	ナー 必須性高

5. 「カラ」「ケン」「ケー」の 文中用法と文末用法の接続関係の異同

• 首都圏方言の「カラ」

文末 ○からね(Ⅱ)

「からさ」: 後続く内容がないと不自然。

「からよ」: 乱暴・粗野な印象。

帰りは車で
送ってあげる
からね。

終助詞

間投助詞

間投助詞

• 熊本方言の「ケン」

Ⅲ〔12〕A: 阿蘇山から見える景色は良かったよ。

B: アレワ ヨカ {ケンネ／*ケンヨ／*ケンバイ／*ケンタイ} 【A】

文中 ○ケンネ、○ケンタイ(Ⅰ)

間投助詞

文末 ○ケンネ、×ケンタイ(Ⅱ, Ⅲ)

終助詞

5. 「カラ」「ケン」「ケー」の 文中用法と文末用法の接続関係の異同

・ 倉吉方言の「ケー」

話し手の確信的な事態の一方的な知らせの意味で文末に使える。

Ⅲ〔2〕(雨が降っていることに気付いて知らせる時)

ア アメ フットル{デ/ケー}。【C】

不確かな事態の確認には用いられない(Ⅲ〔14〕)。

熊本方言の「ケン」よりも用法が広い。**独話的な例でも多少使える。**

Ⅲ〔6〕(一人でスポーツの番組を見ていて)

ヤッパリ プロノ センシュワ アマチュアト フンイキガ チガウケーナー。【A】

文末では「ナー」と共起した方が「ケー」を使いやすい。文中では任意。

6. 結論と課題

- **首都圏方言・熊本方言・倉吉方言**の理由の接続助詞の**文中用法**の間投助詞との接続関係と**文末用法**の終助詞との接続関係には共通点もあるが**文中用法**にしか見られないものもある。
- 首都圏方言の「ヨ」・熊本方言の「ヨ」「バイ」「タイ」
・倉吉方言の「ヨ」「デ」が使われる形態統語環境で使われ得る。
- 文末で使われる理由の接続助詞「カラ」「ケン」「ケー」は「ヨ」「バイ」「タイ」「デ」といった終助詞と**範列的な対立関係**にある。
- 今後の課題：倉吉方言の終助詞間の接続関係等のさらなる調査

参考文献

- ・秋山正次(1983)「熊本県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学9—九州地方の方言—』国書刊行会
- ・上村孝二(1983)「九州方言の概説」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学9—九州地方の方言—』国書刊行会
- ・神部宏泰(1991)「九州方言の総括的解説:文法」九州方言学会編『九州方言の基礎的研究 改訂版』風間書房
- ・神部宏泰(1992)『九州方言の表現論的研究 研究叢書108』和泉書院
- ・許夏玲(1997)「文末の「カラ」について—本来的用法から派生的用法へ」『ことばの科学』第10号73-86
- ・許夏玲(2002)「話し言葉における文末表現と終助詞「ネ」「ヨ」の共起関係—「ネ」「ヨ」が付かない文末表現を中心に—」『言葉と文化』第3号111-126
- ・阪上健夫(2023)「熊本方言における順接確定条件節の主節化」『日本方言研究会研究発表会発表原稿集』第116回17-24
- ・白川博之(1994)「「カラ」と「カラダ」」『広島大学日本語教育学科紀要』第4号63-74
- ・白川博之(2009)『「言いさし文」の研究』くろしお出版
- ・仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房

参考文献

- ・日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法4』第8部 モダリティ くろしお出版
- ・野田恵子(1993)「終助詞「ね」と「よ」の機能：「よね」と重なる場合」『言語文化と日本語教育』第6号,10-21
- ・蓮沼昭子(1992)「終助詞の複合形「よね」の用法と機能」『対照研究—発話マーカーについて』筑波大学つくば言語文化フォーラム63-77
- ・林四郎(1960)『基本文型の研究』明治図書
- ・藤原与一(1986)「方言文末詞〈文末助詞〉の研究(下)」『昭和日本語方言の総合的研究』第3巻 春陽堂書店
- ・益岡隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- ・益岡隆志(2000)『日本語文法の諸相』くろしお出版
- ・南不二男(1993)『現代日本語文法の輪郭』大修館書店
- ・和田礼子(2009)「方言教材開発のための熊本方言分析の試み—文末詞タイと、接続助詞ケンについて—」科研報告書『地方中核都市在住外国人のための方言教材の開発—その理念の構築と実際—』1-18
- ・渡辺実(1953)「叙述と陳述—述語文節の構造」『国語学』第13・14号20-34
- ・渡辺実(1968)「終助詞の文法論的位置—叙述と陳述再説」『国語学』第72号127-135

本研究にご協力くださった方言話者の方々、並びに方言話者を紹介してくださった坂井美日先生に深く感謝を申し上げます。

本研究はJSPS科研費17K02777, 21K18376, 国立国語研究所共同研究プロジェクト「消滅危機言語の保存研究」の助成を受けている。

ご清聴ありがとうございました。